

令和3年9月24日

南の風 For Junior62

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

三つ目です。育成年代に合わせたトライアングルオフェンスです。

トライアングルオフェンスと言われても、皆さんにはあまり馴染みがないかもしれません。せっかくの機会ですから、トライアングルオフェンスの成功例を紹介します。あの人物が関わっていました。

このオフェンスシステムをNBAに取り入れたのは、シカゴ・ブルズのフィル・ジャクソンヘッドコーチです。元々アシスタントコーチのテックス・ウインターが、大学のコーチ時代に考案し体系化し指導していたオフェンススタイルでした。そのころブルズには皆さんもよく知っている、NBA 史上最高のスーパースターと言われる、マイケル・ジョーダンがいました。ジョーダンの得点能力は素晴らしく（何度も得点王になる）他を圧倒していましたが、NBA で優勝することはできませんでした。

そこでフィル・ジャクソンはジョーダンを最大限に生かし、周りのプレーヤーを機能させる戦術として、トライアングルオフェンスを導入したのです。ブルズはこのトライアングルオフェンスを駆使して、3連覇を2度果たし、6度のNBA チャンピオンに輝きました。

その後、フィル・ジャクソンはロサンゼルス・レイカーズに移ります。その頃レイカーズには、コービー・ブライアント（故人）、シャキール・オニールなどのスーパースターを擁し、高い勝率を記録していましたが優勝には届いていませんでした。

フィル・ジャクソンはテックス・ウインターを呼び寄せ、再びトライアングルオフェンスを駆使して、レイカーズを5度のNBA チャンピオンに導くことになるのです。

それではトライアングルオフェンスの原型を簡単に紹介します。

トライアングルオフェンスは、ハーフコートオフェンスの一種です。

アライメントは攻めるゴールに向かって、ミドルライン（リングとリングを結んだ仮想線）の右側に3人になります。その3人の位置は、ローポスト（制限区域のニュートラルゾーン辺り。皆さんはローポストと言うと、もっとベースライン際だと思っているかもしれませんが、実際はニュートラルゾーンの周辺です）に1人、同じサイドのコーナーに1人、ウイングに1人です。（この3人が三角形をつくる形になるのでトライアングルオフェンスと呼んでいます）後の2人は、ミドルラインの左のトップに1人、ショートコーナー辺りに1人になります。

ブルズで最初にフィル・ジャクソンが考えたことは、ジョーダンをローポストに置き、相手ディフェンスにジョーダンにダブルチームさせないことでした。相手はスーパースターのジョーダンを徹底マークするため、ダブルチームでジョーダンを潰す戦術が多かったのです。

上に書いたアライメントを頭に思い浮かべて読み進めてください。（図に表すと分かりやすいです）

ウイングからジョーダンへパスが入ったとします。ウイングのディフェンスがダブルチームに来れば、ウイングがノーマークになります。逆サイドのローポストのディフェンスがダブルチームに来れば、逆サイドの選手がエルボー辺りに上がって、ジョーダンからパスを受けます。このように、ジョーダンと周りが連携して攻めるシステムがトライアングルオフェンスのスタイルです。 次号にします。